

CAS	87865
物質名	ペンタクロロフェノール
IARC Vol. (発行年)	71 (1999年)
遺伝子傷害性に関する知見	<ul style="list-style-type: none"> <li>代謝活性化後の本物質は、酸化的な DNA 傷害による弱い染色体異常誘発性を示す可能性を認められた。</li> </ul>
実験動物に関する知見	<p>評価：十分な証拠</p> <p>概要：マウスへの経口投与の結果、マウスの雄では肝細胞の腺腫とがんを、雌では肝細胞の腺腫を認め、各種がんの発生数は暴露量に依存して増加した。また、雄及び最高用量に暴露した雌では副腎の褐色細胞腫も認められた。</p>
ヒトに関する知見	<p>評価：限定された証拠</p> <p>概要：職業暴露に関する疫学調査があり、そのうち最も一貫した結果として、軟部組織の肉腫と非ホジキンリンパ腫の過剰発生が報告された。これら2種類のがんの過剰発生は偶然とは考えられないが、クロロフェノール類に混在していたポリ塩化ジベンゾ-p-ダイオキシンの影響を、調査結果から除くことができなかった。</p>
評価結果	<p>上記のとおり、本物質は弱い染色体異常を示すとともに、動物実験において発がん性の十分な証拠があり、また、ヒトに関する知見においても発がん性の証拠が認められているため、より詳細な情報収集を行う必要があると考えられた。</p>